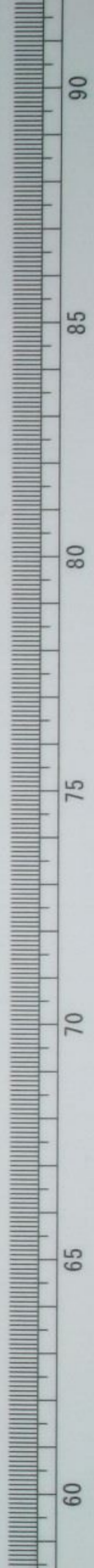


弘法大師御傳記 八

597  
8



八  
597  
8



弘法大師御傳記卷之第八

目録

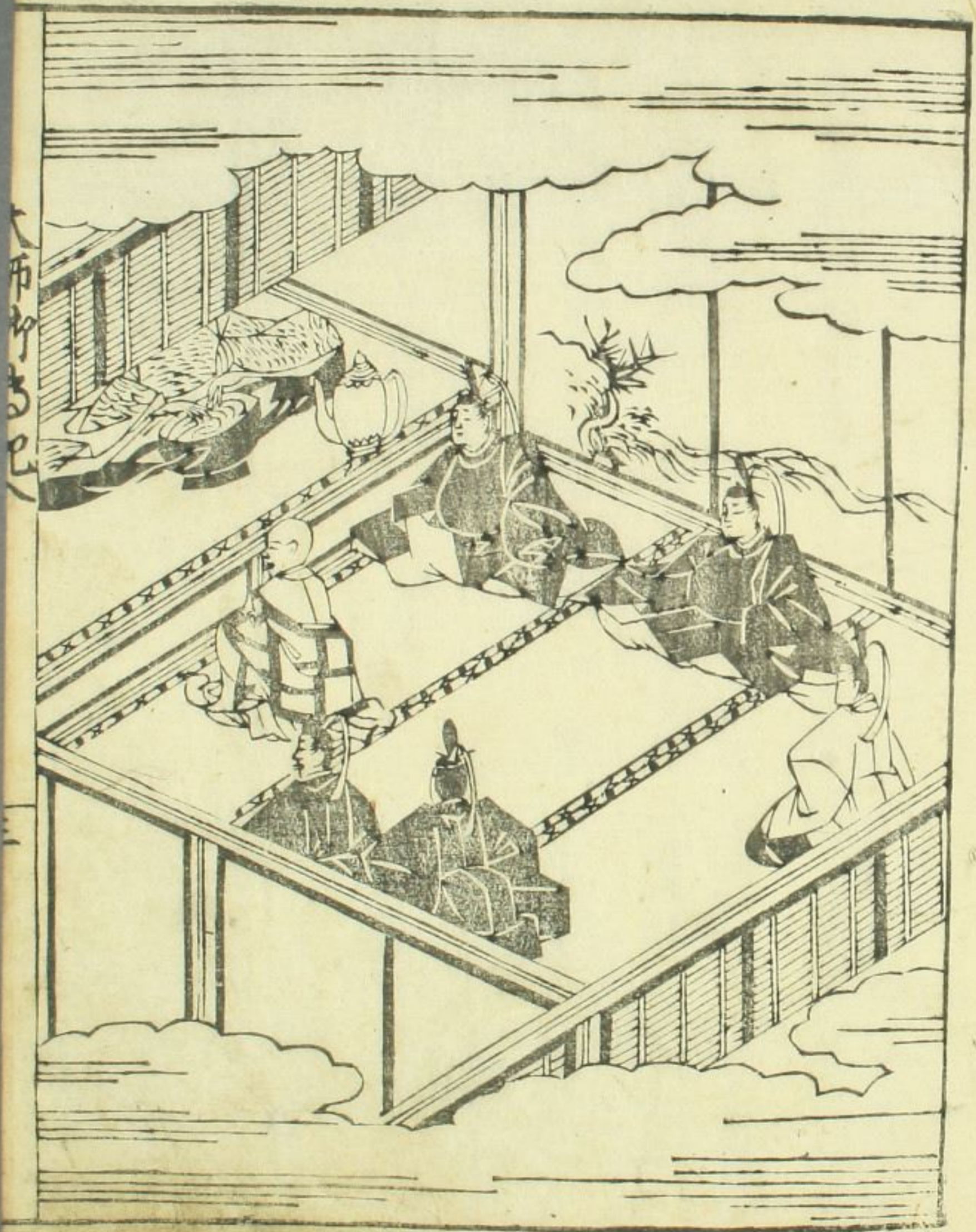
東寺西寺の事  
 守敏の事  
 西乃の事  
 神泉苑の事  
 網伏法蔵の事

六十

弘法大師の傳記卷第八

弘法大師の傳記卷第八  
あつ小南の乃も般傳の德の世よここえ神の  
奇持たらしもをぬりしはの徳ありとてを  
海を渡るうらわもみくぞも津路の  
くもるまはれども徳のまよるとく極天  
空乃海のうよは建立ありし。未権門の東  
あり。東も西寺として大町の地とて海へてか  
藍と二ヶ所をそとに給ふは傳のうらんを  
と代りてはまればんと。師せんぶ區をか  
つら。かんとはりありて。あもとは南のの般  
傳のよつらとまれば。東もとは南の海ありし海乃





大研抄  
 三  
 物たまぐらをわたりたれど。うりてりてり  
 物たぐらひけり。あめびんをゆきまよひ  
 火乃れとひとぐれまらに。かりそも地ま  
 りしまけり。わさくふ湯乃こも。見ど  
 とろ。あそまらり。結御むすみこもく。あ  
 ぎまひひとれ。うり

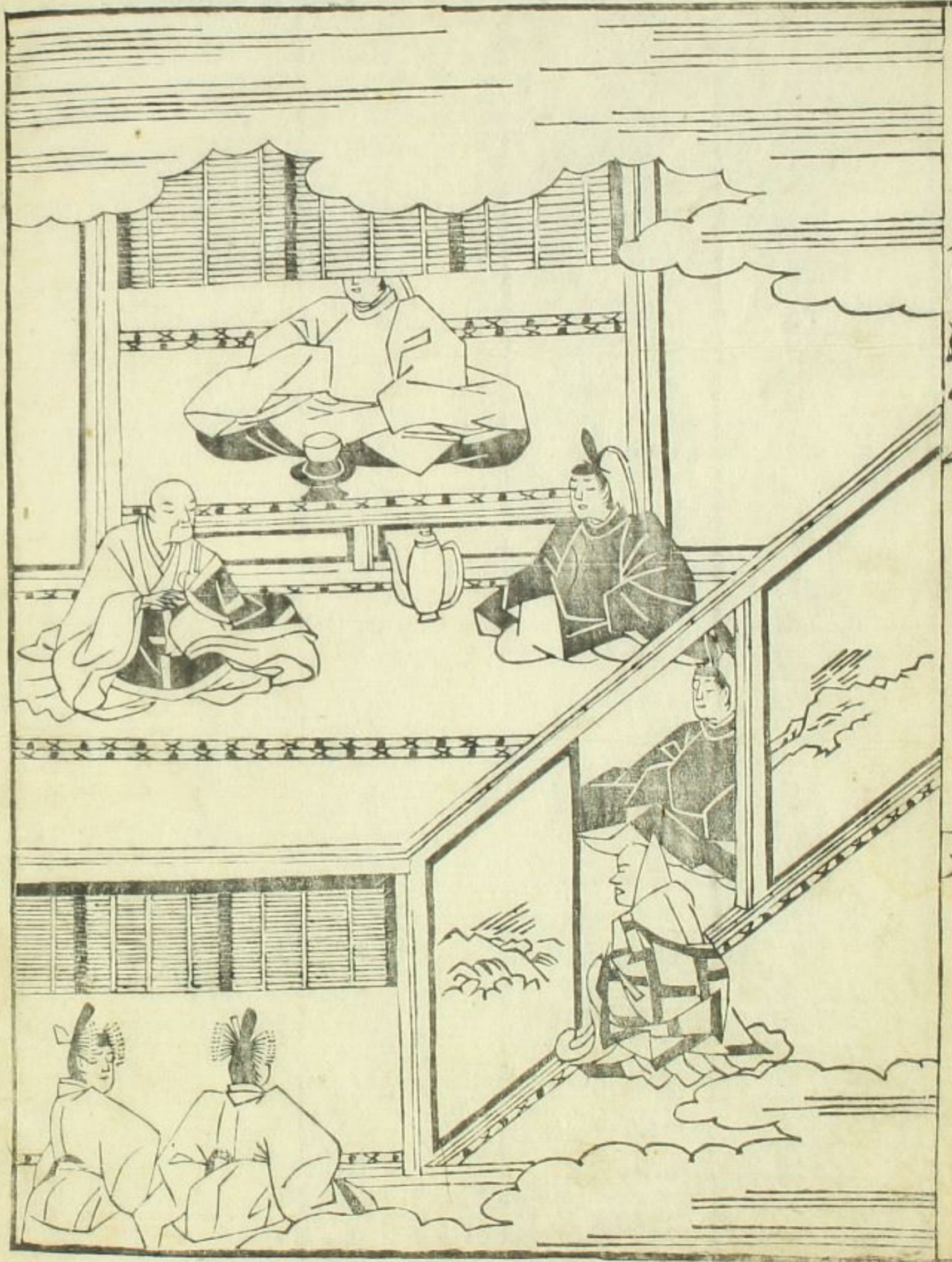


ありきれば海もかんでてたつてく  
 みこりのりありは海もかんで  
 たまりよふやうにたつてく  
 一は大師のいまはあつた  
 梅檀礼塔文控破戸とやまのく  
 があつたすうあつた  
 いかつていかにありてあつた  
 みごときも敏を海と神と  
 実るけつにりていかにあつた  
 て感懐乃後方といふんせ

ける物もあつていかにあつた  
 業とまつりける建業といふ  
 身敏一はつていかにあつた  
 おりあつたいかにあつた  
 ちつていかにあつた  
 ひとあつたいかにあつた  
 湯よあつたいかにあつた  
 らあつたいかにあつた  
 ぶよあつたいかにあつた  
 まつたいかにあつた  
 とあつたいかにあつた





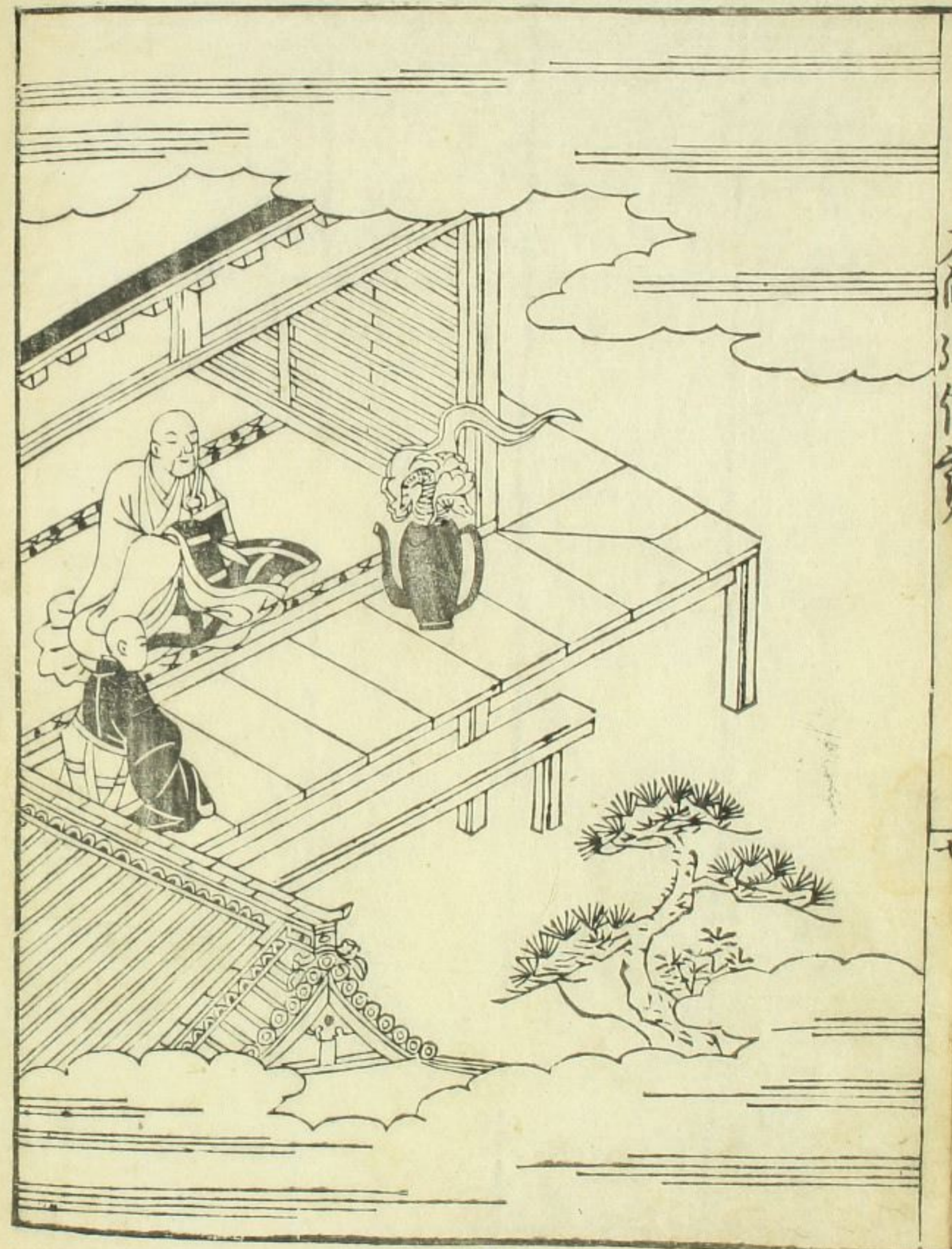


九代目伊藤

志のむらさきひきはるは。是にひくくよまき一人は。さ  
 こあり。さあ海よりわつあめ。さあ海よりさあ海より  
 骨髄<sup>こつぞい</sup>よてい。さあ海よりわつあめ。さあ海よりさあ海より  
 てまう。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より  
 さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より  
 の名とと先させ。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より  
 早<sup>はや</sup>越とや。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より  
 よあり。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より  
 ふ乃<sup>ふの</sup>終<sup>しゆう</sup>神<sup>しん</sup>と。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より  
 のうらり。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海よりわつあめ。さあ海より

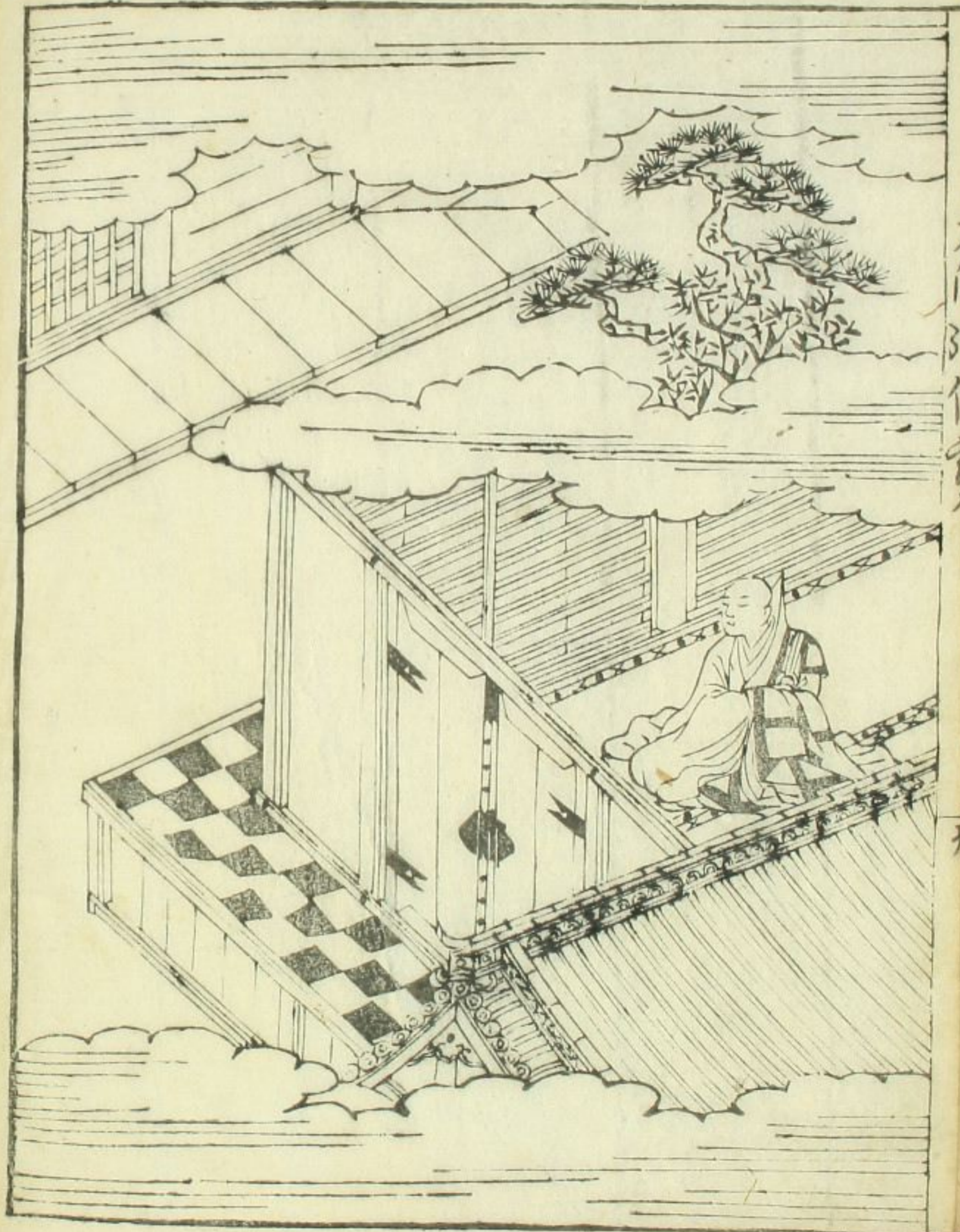
八代目伊藤

ありはらうして...  
 中...  
 う...  
 英の氏...  
 て...  
 あり...  
 東...  
 是...  
 わ...  
 と...  
 西...



九...  
 十...





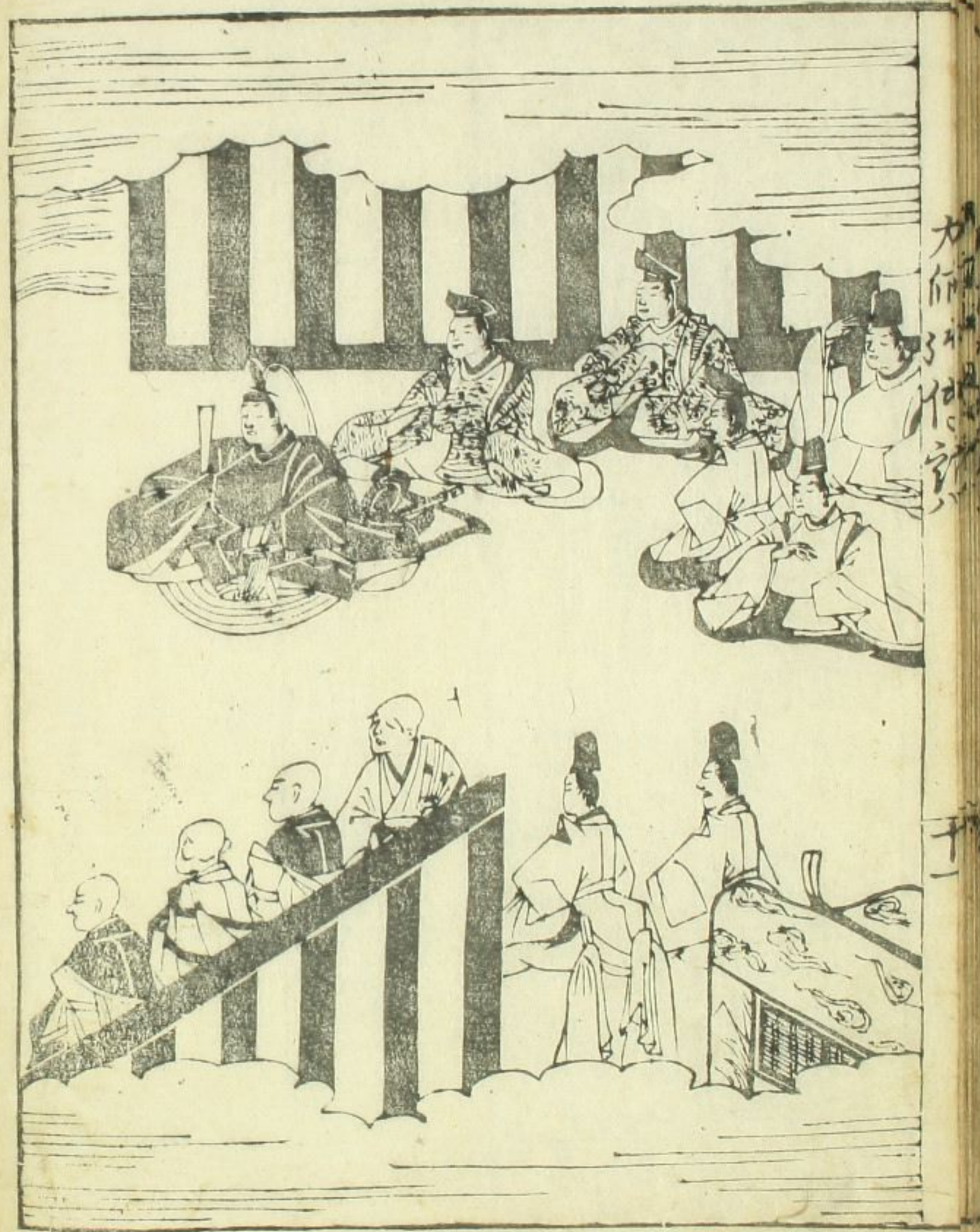
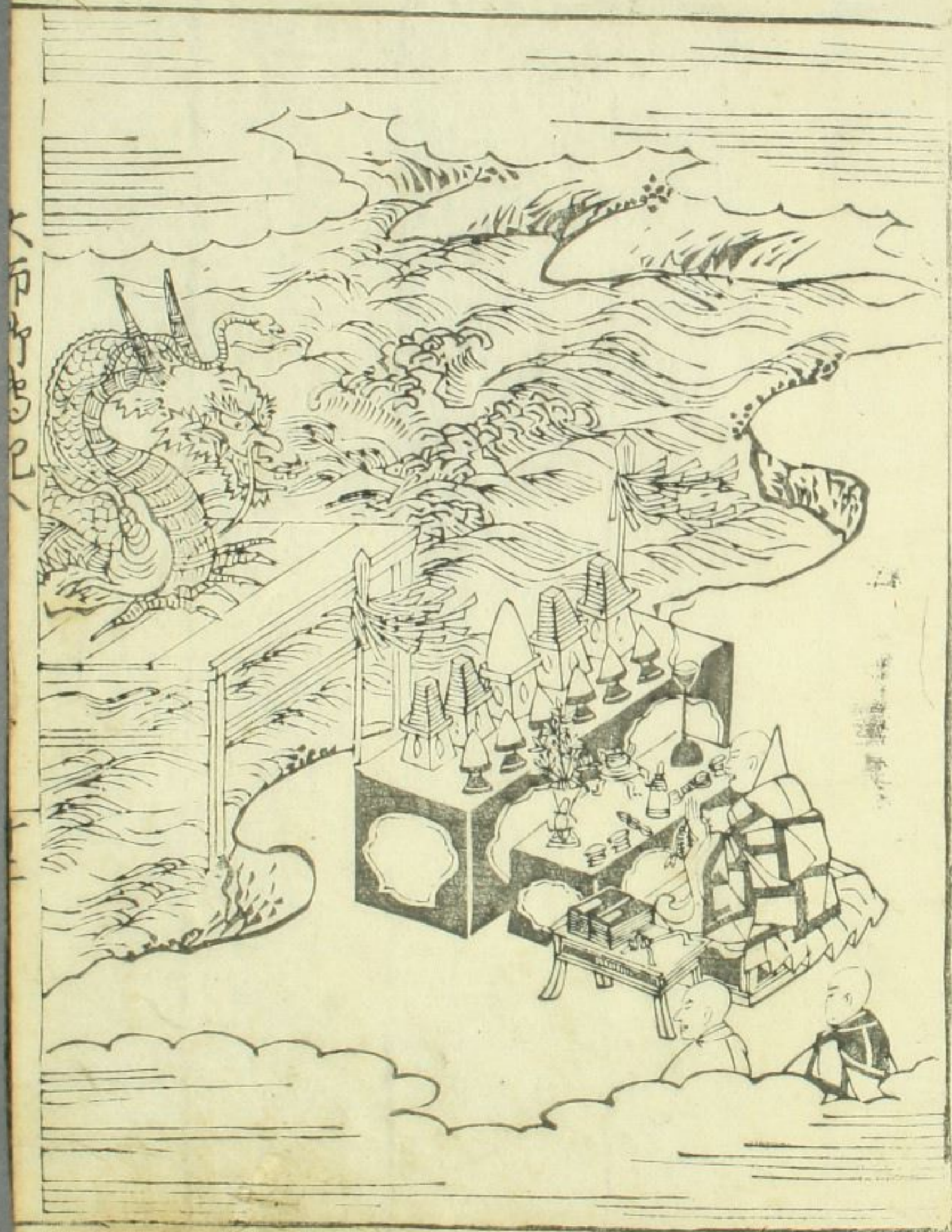
空を海とてしそとてあめはほくさあめをん  
 行りかふこの男は終神あさしうしあ  
 いとがなまめとて思てゆらん  
 ふよあくふ天竺のうらひ大智山  
 無雙池とて小池の若女終神いとりあ  
 上位の薩摩下りてたりまをれあめ  
 は竜とかりこ免りまあまのざり  
 ありてこころとてはさうそらもん  
 くれは見りたさよ御感あひてり  
 終神と物結しそまらたまふ  
 わりくば空海ちうくありて終

大市抄巻八

泉鏡のりけりかゝりは權とくまららる  
とつふ草ともいで珍のこらとつとつと  
権とよとんとと。結面裡の法と惚し。のた  
りふでいけりあいのまゑれ奥名と惚し。新精  
乃此心ごよと惚し。さまひらりよやたら地  
陰を一天よひと惚し。珍ますけりら八寸  
けりりの重色の珍は現し。長九尺けりたり  
蛇乃つたよと惚し。地あやうけりまほし。よ  
のつよまらんれまめこよひまらと惚し。池あざ  
めけりよと惚し。さうらうらうら。英惠まほし。兼  
張まほし。後まほし。木乃の骨子たらめの口目りれ  
と

凡えあやけ余のみくすこまらと惚し。地のな  
さととて。いづれは珍もあけりらと惚し。と  
のんごあやとら。すかりらけり。と惚し。よ  
そとと。あいのまのま惚し。とらと惚し。と  
は惚し。あいのの惚し。と惚し。と惚し。と惚し。  
まけり。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。  
けり。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。  
ひぬ。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。  
秘。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。  
よと。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。と惚し。  
えぬ

八寸のり





御方るよ一人よも下回元よ御方よては御堂と  
 ありを御とよねてを海と乳一なるよとよふ  
 あり門は兼乃あまのよを海と妙僧御よ任  
 一御ひたるいよ一御御あさうとよあ  
 のたと御くあんごうま一御とよいびと御  
 一りそおらりけるよそは御統のちら御とれ  
 くりよそらり御ひけるよまよ一御若女御よな  
 やくそ御衆義の御よらめなりて御記の下  
 御とよ乃御まてげおとよの御我はとよ海  
 ちみんと御とよ御いやくありらるるや

八千七百九十九

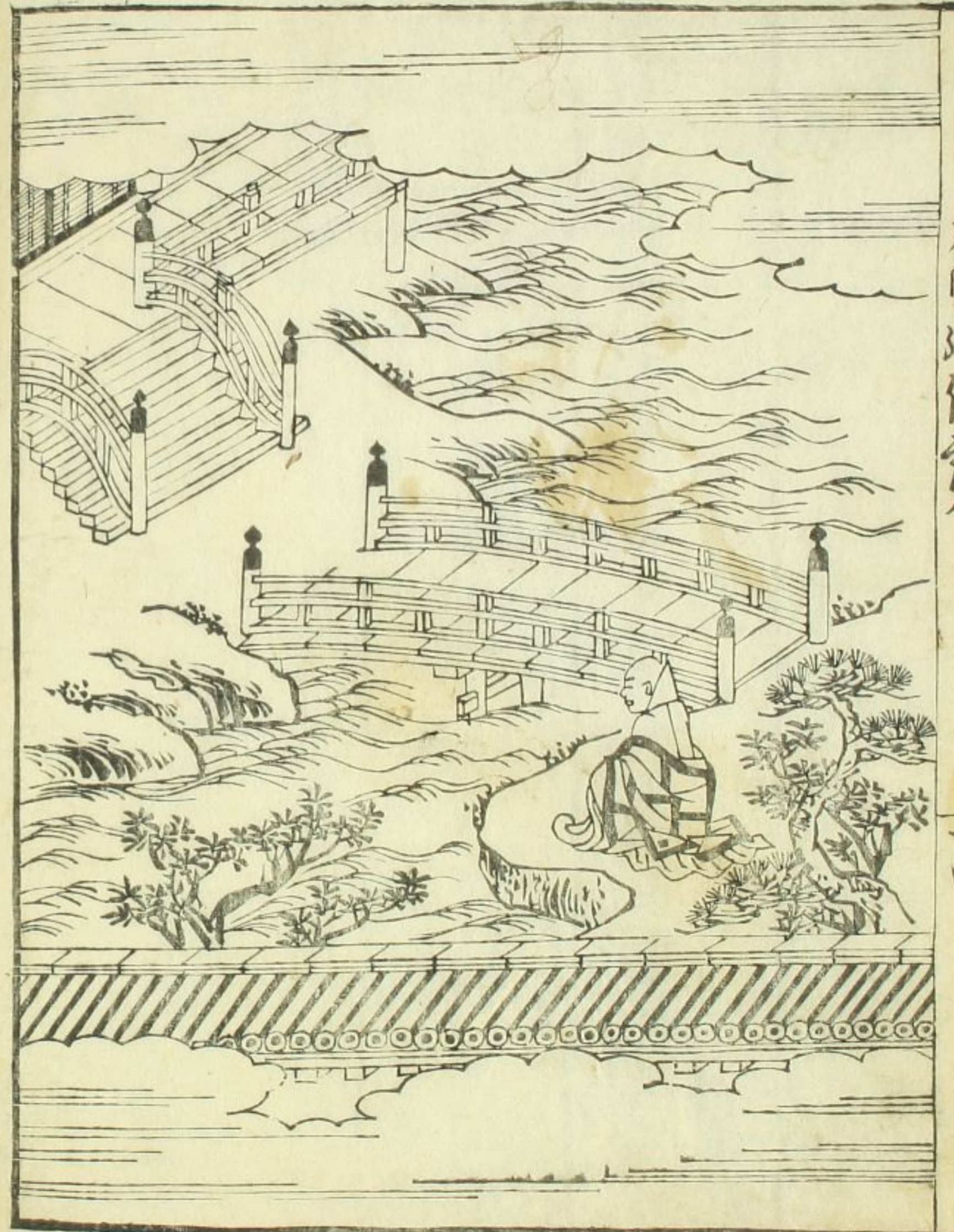
加何の御

三二





そとく 神氣 義とやまをい。大内と平 安 徳よ  
 うら。く。く。先ては 泉あり。とれ。因乃 文 玉の  
 靈園よ 唯へ。方八町よ 築き。て。あり。園 園也  
 あり。一。乾 條 宮と名付て。代。の。み。と。此 所  
 庭の 苑あり。と。や。され。岩 采り。と。あ。が。れ。て  
 水。三。伏の。友。と。う。ま。い。杉。栢。乃。こ。と。と。志。多。り。て。は  
 風。一。亭。乃。秋。と。と。と。先。由。と。と。平。堂。舞。園。の  
 基。栢。梁。基。の。い。あ。く。乃。石。と。う。く。築。橋。は。志。願  
 の。う。ま。く。漂。文。乃。あ。り。と。と。を。め。と。あ。ぬ。海。乃。此  
 此。声。と。の。り。ま。り。く。結。蓮。乃。あ。そ。び。無。と。り。よ  
 り。新。神。屋。宅。乃。地。と。あ。り。く。は。志。き。れ



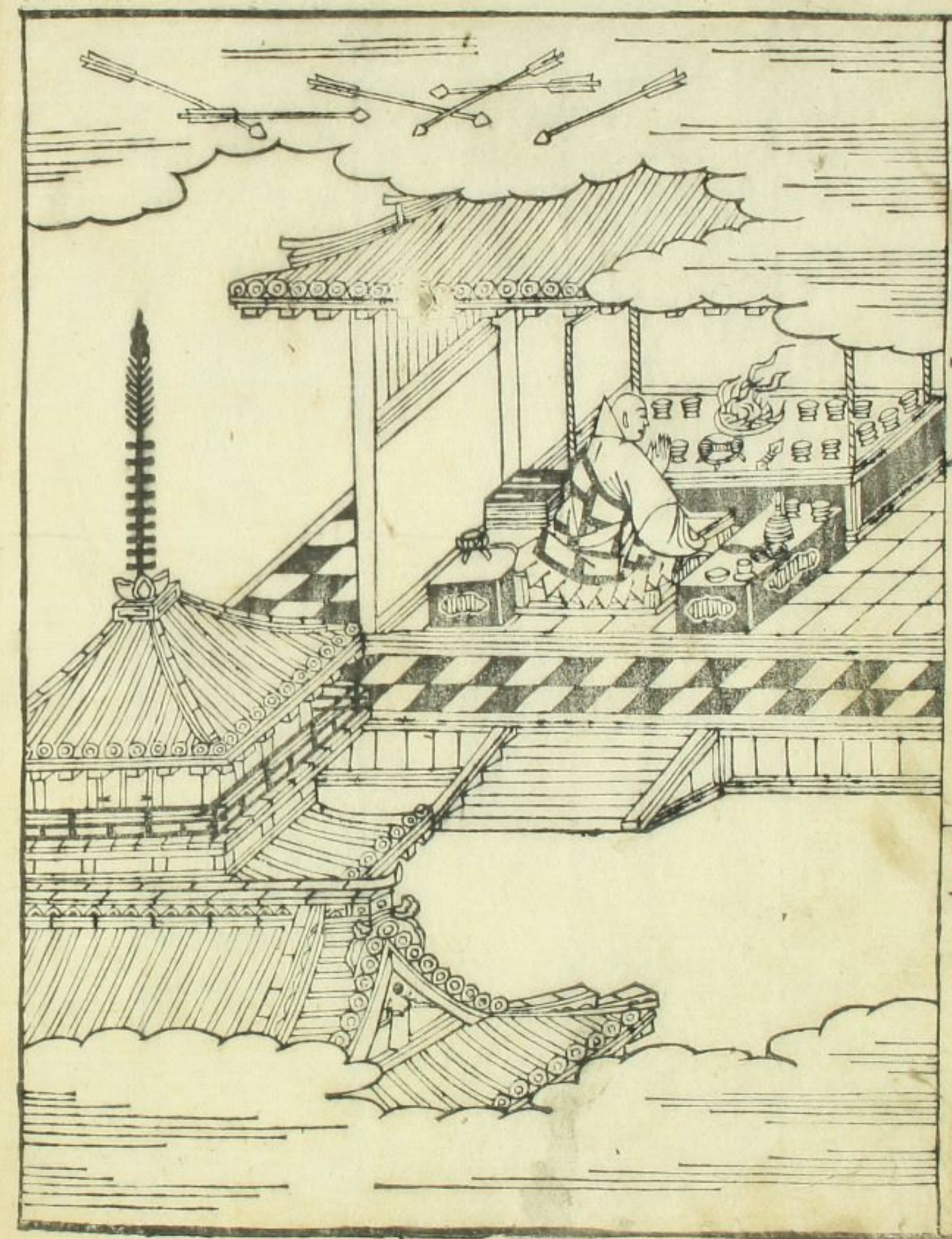
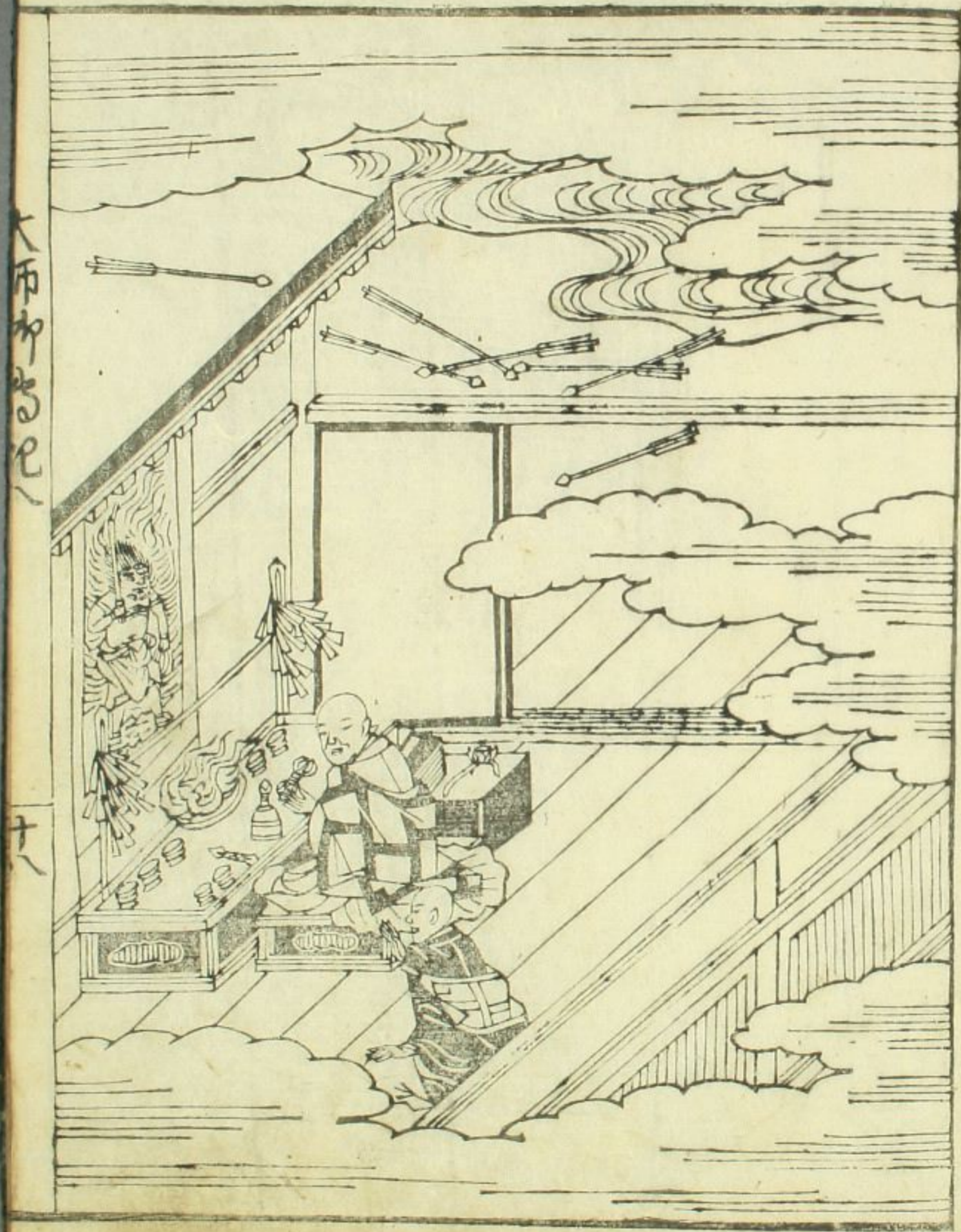
九  
 十  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

わく。福祿のさうりある。それいあぐ。難人ぞう  
乃。其来とさめ。清浄のな。ゆ。風。何。あ。い。  
感。意。并。持。乃。其。地。と。あり。それ。い。この。代。  
代。の。聖。主。も。あ。れ。と。あ。が。め。あ。の。賢。臣。と。い。う。  
な。ま。し。い。し。さ。よ。早。難。なる。時。い。ま。い。は。池。と。  
き。よ。め。あ。あ。る。代。後。を。好。の。位。室。行。り。あ。と。  
勢。あ。い。て。は。遠。保。乃。は。あ。い。ば。あ。下。小。庭。と。  
荊。棘。路。と。い。ら。わ。ら。れ。あ。い。は。松。林。乃。と。い。え。  
か。と。あり。と。流。流。の。音。様。は。乃。位。と。作。ら。う。い。え。  
歸。者。の。き。要。氣。乃。と。さ。り。あ。い。は。あ。い。ん。人。  
に。それ。さ。げ。り。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。

は。が。或。初。福。の。ひ。さ。ふ。け。事。と。う。あ。い。難。地。  
と。た。り。一。口。と。う。く。て。難。株。の。人。と。い。え。  
ら。れ。多。り。と。は。涼。輝。と。い。く。あ。た。ま。り。と。  
門。も。墻。も。や。う。あ。く。ま。う。と。う。ば。て。さ。う。  
り。と。い。は。れ。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。  
お。入。ら。る。に。更。に。割。す。人。の。あ。い。牛。馬。の。味。な。  
と。い。は。れ。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。  
な。ま。り。う。と。い。は。れ。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。  
ご。う。と。い。は。れ。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。  
も。た。い。と。い。は。れ。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。  
と。と。免。ぐ。と。い。は。れ。と。い。う。事。あ。ら。や。あ。久。乃。乱。れ。

の影とあり免ありて。けあつありあつた  
 りら西ちとせむじら也。きんたの。まよふ  
 が法とつらん。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 一。法。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 わがふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 し。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 らん。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 ま。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 む。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 ふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 を。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。

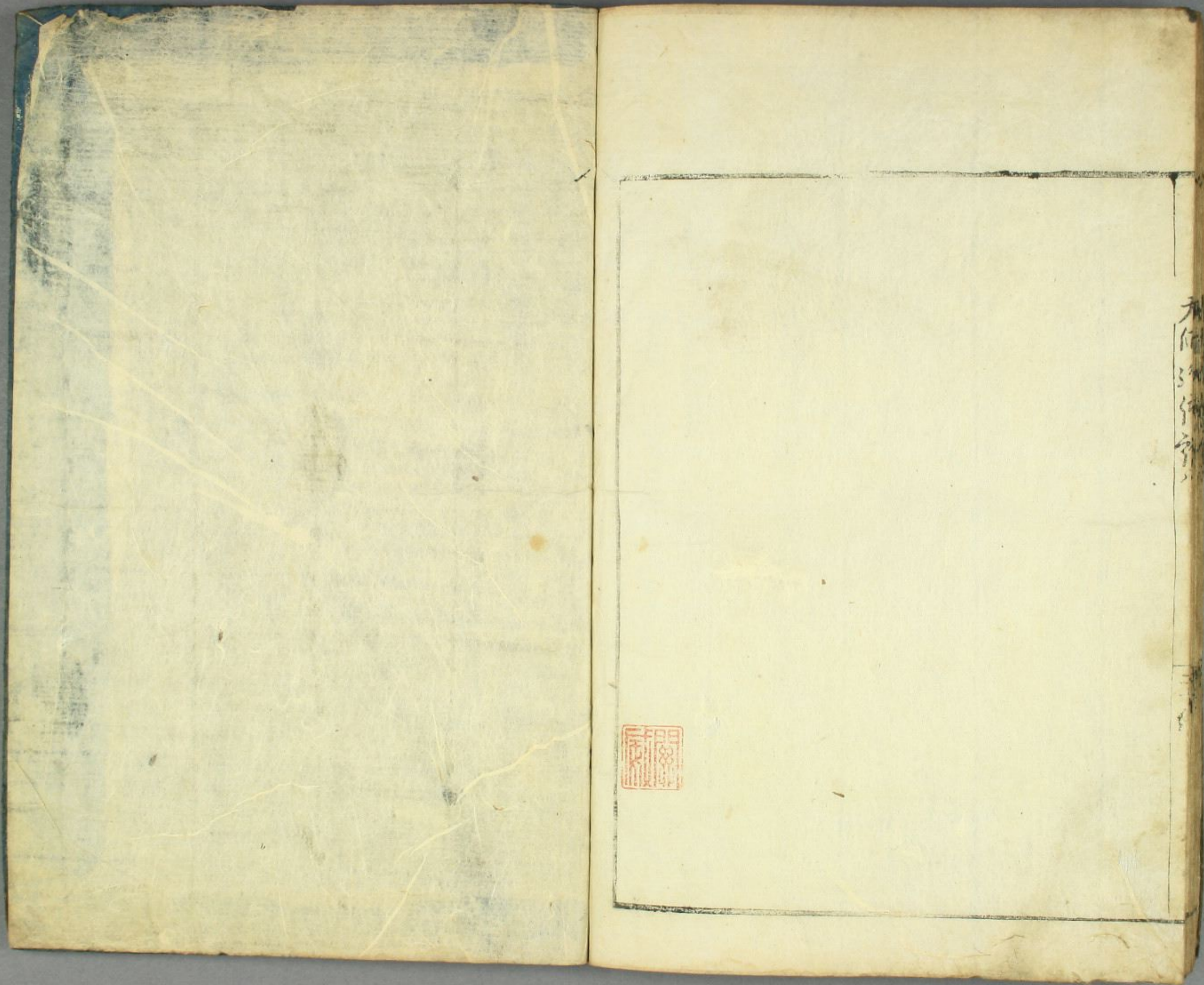
せと網伏一。のまにやとらん。まよふ。まよふ。  
 と。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 よ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 一。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 と。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 の。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 業。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 り。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 ま。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 ま。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。  
 ま。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。





ぬんりうもぬんありていんりたる  
 多れだぐひりまーりんりのあひ  
 せりせあり。空海あるむんりり  
 こまると舞とりてふにりり入懐乃よ  
 しと指あされりまは借借うめむ乃  
 なるごりむむい。き織うまひ乃あまのむ  
 ありむんれとまぬいてたまにまらあひ  
 は感じやうもあさりと。まもつすまら  
 ぎんとやあせける。このれあむん  
 んふらあう。んむ悩れせられける。佛壇の  
 おりたあま。てつあにまあくぬぬい





天  
仙  
傳  
記



